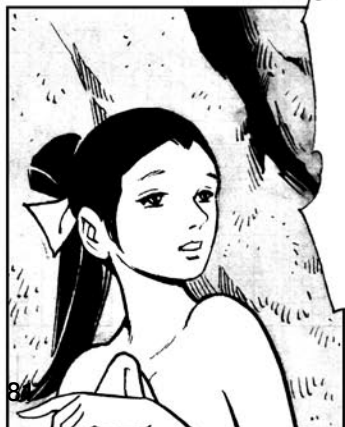


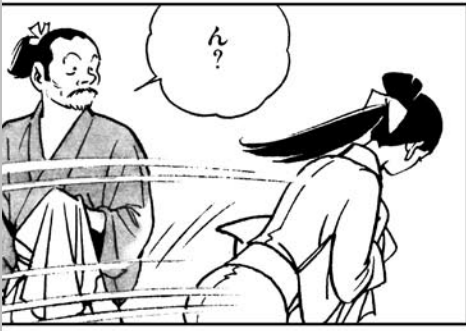


二人は、しばらく
言葉も忘れて、おたがい
を見つめあつた……





よう
シズカさん
……



ん？



あれは
ムサシ……

はあ……
なるほど……
さういふ
ことか



はて……？

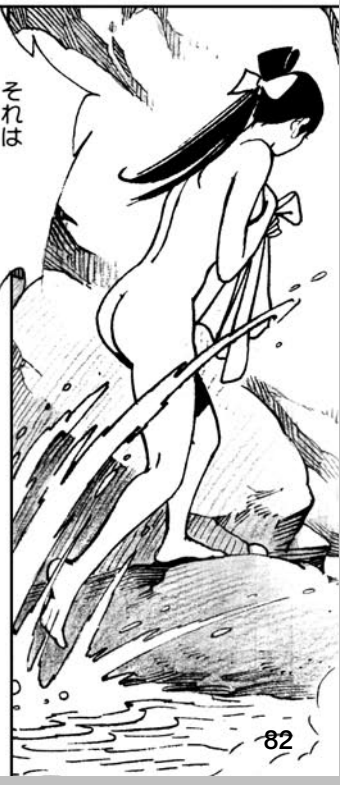


ご、
ごめんなさい……
ムサシさまが
おいでになったので
出るに連れられなくて
こちらの岩かげに
身をひそめていた
のです……

いいや
……
わたしこそ
シズカさんが
おられるのも
知らずに……



それは
ムサシが男に
成長してから
はじめて目にする
まぶしくも美しい
若い女の裸身で
あつた……





恋慕の道……
思いよる心
なし……!!
そうなのだ!!
女に心を
奪われていて
きびしい剣の道が
達成できる訳が
ない!!

ああ……しかるに!
わずかに一目みた
女の裸身が脳髄から
はなれないとは
何としたことか!!

しかも、これは
愛とも恋とも呼べぬ
ものなのだ!!
わたしの肉体の中の
動物としてのオスが
メスのにおいを
求めているにすぎぬ
ことなのだ!!



△サシが剣の道へと
進む決意の中で
強く心に立てた
いくつかの誓いが
ある!

道においては
死をいとわず!!

常に兵法の
道をはなれず!!

我事において
後悔せず!!

一生の間
欲心を起さず!!

そして……
恋慕の道
思いよる心
なし!!





この大きいの
から片づけよう



ま……
ムサシ
さま……



え……
？



わたしが
割って
あげま
しょう



オノが
もう一つあると
いいんだが……



オノを二つも
使うんですか？

そう、
腕も二本ある
ので……



もう一つ？